

# ふれんど通信

第41号

発行 令和3年10月26日 児童養護施設ふれんど  
〒348-0047 埼玉県羽生市新郷 666 TEL048-560-5866

## 秋の便り

施設長 武藤 裕之



拝啓 街路樹の落葉が歩道や車道に舞い散る季節になりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。日頃より、ふれんどの子ども達への心温まるご支援心よりお礼申し上げます。

さて、児童養護施設ふれんどはこの9月を持ちまして満15歳を迎えることができました。これもひとえに支えてくださった多くの皆さま、そしていつも子ども達に寄り添ってくれた職員のお陰と感謝の気持ちでいっぱいです。

今年度も新型コロナで始まり、夏休みも心なしかひっそりと過ごすことの多かった夏という印象でした。しかし、子ども達の協力とそれぞれの職員の工夫で、いろいろなことがありながらも、無事に緊急事態宣言の夏を乗り越えることができました。これもまた、多くの皆さまの励ましのおかげとお礼申し上げます。

今も社会を震撼させている新型コロナウイルス感染症も、自粛生活を守る子ども達と職員の連携で、安全で穏やかな暮らしを維持することができると立証できました。感染を予防するために、子どもたちに協力をお願いすることの多い毎日の中で、どうすれば窮屈にならずに、望ましい支援をしていけるのか考えない日はありません。ひやひやしなながら、時には時間の経過を待たなければならぬ場合もあります。しかし、何事も子ども達と心を合わせないと成果は上がらないことを思うと、この新型コロナはまさに新たな時代への試練の一つの様な気がします。今後も楽しみにしていたたくさんの行事も中止にせざるを得ない状況がしばらく続くことになるかもしれません。しかし、ピンチをチャンスに変えていくことが、今後の子どもの生きていく力となり、職員の力になることを祈りつつ、皆で工夫をしながら乗り越えて行こうと思います。

最後になりましたが、風の冷たい季節に移り変わってまいります。皆様もお身体に気をつけてお元気でお過ごしください。

敬具





## 変貌する社会と子どもたちの自立について

元ふれんど施設長 須藤三千雄

急激に変貌し予測が難しい社会に対応して、子どもの支援をどのようにしていくかが、毎月の「ふれんど」の職員会議や自立支援検討会議の主題です。

世相は絶えず変化しています。最近の新型コロナウイルスの流行はまさしくその証です。変化の少ない、平穏な社会に生きるのではなく、変動極まりない社会に処することが、まさしく「生きる」ということです。

半世紀前に、新人類とか異邦人とか、当時の子どもたちを呼びたくなかったのは、当時の大人たちの全く理解を超えた世界に子どもたちが育っていることに対する、言いしれぬ不安と脅威を感じていたからだと思います。

しかし、どんなに社会が進歩しても、人間は一番未熟な形で産まれてきます。その未熟な赤ちゃんは、這えば立て、立てば歩めと、一步一步、着実に、人生の階段を上り続けて、完成した個体になっていくのです。赤ちゃんが全力を尽くして這い、必死に立つ努力をすることが大切です。言うまでもなく、周りの大人や社会的養護に関わる職員等の適切な見守りと支援は欠かすことができません。

私の持論ですが、大人と子どもとの対話は、技術的進歩の先端では成立しないと考えています。例えば、大人がゲーム等で、子どもと一緒に慣れて楽しむ。涙ぐましい努力をしています。うちのお父さん・先生はゲームが上手と子どもは喜ぶでしょう。私は、ただ、それだけのことと思うのです。新しいことでは、所詮いつの時代も大人は子どもにかなわないのです。

私は、子育ては、子どもと大人と一緒に山登りをするようなことだと考えています。はじめは、どの子どもも嫌がるでしょう。それでも一緒に汗を流して歩く。「疲れたか」「鳥がさえずっている」「風が気持ちいいね」の大人の問いかけに…子どもは曖昧な返事でしょう。危険な場所では、大人は子どもと手をつなぎ引き上げることもあるでしょう。子どもはこうした時間に、新鮮な驚きを感じていることが多いと思います。大人と子ども、そんな触れ合いをしたいのです。

自立を目指すときに、子どもは、私たちの手元から、いよいよ遠く未知の世界に入っていくに違いないのです。そうした子どもに、私たち大人が、生きて経験して、十分な自信を持っている「確かなもの」に、一度はしっかりと結びつける時間が重要です。それが、大人と子どもの対話なのだと思います。その対話の中で、子どもは未知の世界を生きる勇気と帰れる場所を持つことができるのです。

先の見通しが持ちにくい社会でも、一筋に貫いているものはあります。目先の変化に惑わされることなく、「人生で大切なこと」を子どもたちに伝えていきたいと思うのです。その深い願いに支えられているもの、それが「福祉」だと思うのです。あなたは、子どもに、人生で大切なものは何かと、自分の言葉で語っていますか？子育てをスマホのゲームに任せてはいませんか……。





# ふれんどの夏休み

コロナ禍で制限された生活の中で、子どもたちのために、職員は工夫をして“イベント”を提供しました！

## 夏野菜&小玉スイカを育てました！

男子棟の前に2つの花壇があります。この夏は、1つの花壇でF棟が なす・きゅうり・トマト・パプリカなどの夏野菜を、もう1つの花壇で厨房さんが 小玉スイカを大事に育ててくれました。そしてそれぞれを収穫後、おいしくいただきました！



## DVD 上映会

8/11・12の2日間、子どもたちが見たい映画の希望を取り、上映会を行いました。みなマナーを守り、楽しんで鑑賞しました。

- 8/11\*「ドラえもん Stand by me2」(全員)
- \*「約束のネバーランド」(小4~)
- \*「樹海村」(中高生)
- 8/12\*「クレヨンしんちゃんラクガキングダム」
- \*「トムとジェリー」(全員)
- \*「花束みたいな恋をした」(中高生)



## みんなで中庭の除草作業

7/22 夏休みになってすぐ、子どもたちが生活している建物前の中庭の除草作業を職員・子どもたちみなで行いました。2歳児~高校生まで、汗びっしょり・軍手を土で真っ黒にし、黙々と取り組みました。あまりあてにしていなかった子に限り一生懸命で、職員がびっくりでした！ 終わってからは、アイスを総務からごちそうになり、おいしそうにニコニコ頬張っていました。お疲れ様でした！



## 中庭でプールでわいわい！！

今年の夏休みは、晴天の暑い日が続きました。幼児・低学年用と、高学年用(小6まで)の2つのプールを作り、毎日午前と午後男女に分かれ水遊びをしたり、水鉄砲で水のかけ合いを思い切り楽しみました★職員はシャワーホースで子どもたちに水をかける専門でしたが、本音は一緒にザブンと飛び込んで遊びたかったな~！！



## ふれんど縁日

8/23 事務所職員主催で、エアコンの利く地域交流スペースを会場に、祭囃子を流しながら♪『縁日』を開催しました。園長が輪投げ、支援主任がくじ、総務がヨーヨー釣りりと光る腕輪、心理士が駄菓子、用務員さんがジュースとそれぞれ店を運営し、児童はそれぞれの店で券をちぎってもらい、わくわくしながら楽しんで参加してくれていました。事務所の職員がいつもとは違う雰囲気だったため、子どもたちの方が少しどぎまぎ緊張している様子が印象的でした。





## 各棟での夏休み

各棟での旅行を計画していましたが、緊急事態宣言により中止になってしまい、レクを行いました。

### C棟—幼児から高校1年生の女子棟—

8月10日に棟外出の代替えとして、レクリエーションを行いました。プレイルームにて、「気配斬り」、「ステレオ」、「震源地」、「文字合わせ」等を行いました。予想以上に盛り上がり、子どもたちも楽しんでいました。

食事はテイクアウトを利用しました。昼食はマクドナルド、夕食はお寿司です。皆たくさん食べてお腹いっぱいになっていました。

夏休み中にあまり外出は出来ませんでした。棟レクが思い出の一つになったと思います。



### D棟—年長から高校3年生の女子棟—

私たちは、浴衣を着て縁日を行いました。

チョコバナナやフランクフルト、フルーツ飴など、お祭りならではの食べ物を自分たちで作って食べたり、夜には花火をしたり近くのコンビニまで散歩をしました。寝る時には、リビングで皆で雑魚寝をして、普段より少し遅い時間まで起きていたりといつよりも特別な時間を皆で過ごしました。



### E棟—幼児から高校1年生の男子棟—

8月、9月にそれぞれ棟レクを行いました。

8月の夏休み中には、ドミノピザを食べながら「たたいてかぶってじゃんけんぽん」と「ワードウルフ」をしました。おなじみの「たたいてかぶってじゃんけんぽん」では、あみだくじでトーナメントを決めました。偶然にも同学年同士や職員同士の対決となり、大いに盛り上がり大騒ぎでした。「ワードウルフ」では、お互いポーカークフェイスをしながら探り合いをするのですが、なかなか楽しめました。

9月の週末にはビンゴ大会を行いました。1番にリーチになったAくんがなかなかビンゴにならないうちに、他の児童が次々にリーチとなり、不安そうな表情をしていましたが、見事Aくんが1番にビンゴとなり、とても嬉しそうでした。景品は職員が文房具を選択し、みな包装されたものを真剣に選んで一斉に開封。中身に喜んでいた児童もいれば、期待が外れ残念がる子も…。ビンゴ自体は皆とても盛り上がっていました。



### F棟—一年中から高校1年生の男子棟—

棟外出の代わりとして棟のメンバーで「カードめぐり」、「風船割りゲーム」、「菓子食い競争」、「花火」を行いました。小さい子から大きい子まで楽しむことが出来、子どもと職員の仲も深まったように感じました。

遠出は出来ませんでした。身近で楽しむことが出来、こういった行事もたまにはいいなと思いました。

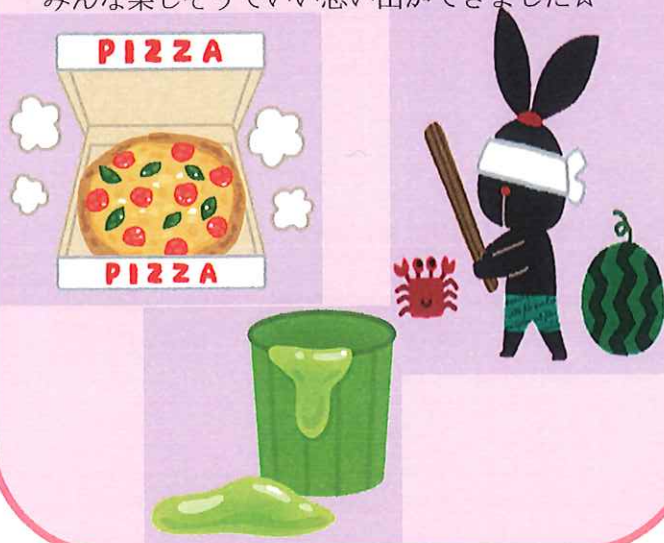




## あすなろ

一年長から中学3年生の女の子のお家—あすなろでは8月28日に納涼祭を開催しました。今年も感染症の影響でどこにも行けず子ども達も時間を持て余していた為、「スイカ割り」、「スライム作り」をし、夕食にはピザを食べ、夜には花火をしました。

みんな楽しそうでいい思い出ができました☆



## しらかば

—小学3年生から高校3年生の男の子のお家—しらかばでは、BBQを行いました。いつもリビングで食べているご飯も外に出ることで、子どもたちの気分も、食欲も増し、笑顔で溢れていました。

食材はお肉をはじめ、エビ、ホタテ等をたくさん用意しました。又、買い物や準備等、子どもたちも積極的に参加し、みんなで協力して BBQ を楽しむことができました。

BBQの後には、花火をして盛り上がり、全体を通してとても充実した時間を過ごす事ができました。

しらかば一同、夏の良い思い出にすることができたので、来年も実施できたらと思います。

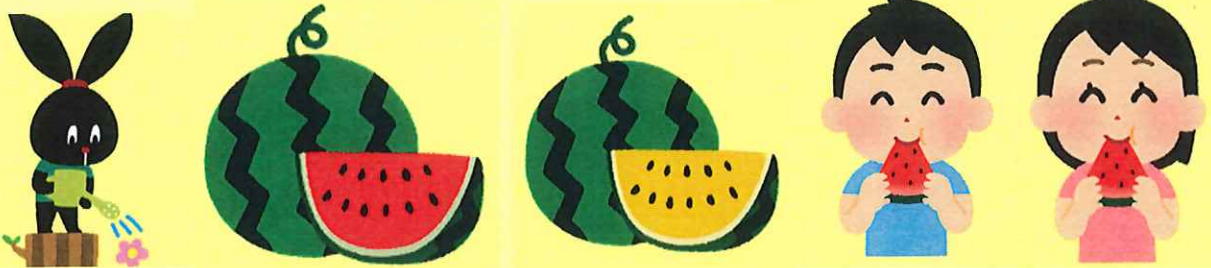


## 昼間保育「僕達のスイカ」—2歳の女の子&3歳の男の子—

この夏、昼間保育では厨房さんや用務員の中沢さんに助けをもらい、初めてスイカ作りに挑戦した。畝作りから苗の植え付け、水あげ、草取り…。すると、丸くてかわいいスイカが少しずつ小さく大きくなった。そして、なんと空中をぶらぶらユラユラ。ついに「空中スイカ」が大きく実った！僕たちの顔と同じくらい大きさ。中身は赤と黄色。味も甘くてサイコーだった。ヤッター感動！

夏の暑さにも負けなかったスイカのように僕達も元気いっぱい大きくなるぞ！

これが僕達の夏の思い出です。





## 日誌



※毎月、職員会議・自立支援検討会議・事例検討  
会議を実施

※随時、職員研修を実施

### ◆8月

16日：星野 Dr 職員相談

30日：小学校・中学校始業式

### ◆9月

1日：春山幼稚園始業式

2日：新郷第二小との連絡会

21日：新二小4年社会科見学

\*中学校：中間テスト

### ◆10月

9日：春山幼稚園ミニファミリー運動会

13・14日：川俣小6年修学旅行

14・15日：新二小5年林間学校

15日：川俣小5年社会科見学(川の博物館)

15日：つぼみの会(高校生対象園内性教育  
グループワーク)

16日：羽生福祉会3施設合同秋祭り

22日：新二小2年遠足

南中3年対象進路説明会

23日：川俣小・手子林小運動会、漢字検定

25日～29日：南中三者面談

28～11/9：西中三者面談

30日：新二小運動会

31日：南中合唱コンクール

### ◆11月

10日：園内棟リーダー研修

18日：園内虐待防止研修

19～21日：南中3年修学旅行

19～21日：羽生第一高校修学旅行

28～30日：久喜北陽高校修学旅行



いつも温かいご支援ありがとうございます

～寄贈品～

(R3.4～R3.7)



(株)和田百貨店、空と雲の作業所、(株)かねか苑  
葬祭、としのぶさんの家の粉、梅林堂、羽生市法人  
会、フードバンク北関東、羽生の杜、ゴルフ・ドウ、いな  
ば食品(株)、フレーベル館、赤い羽根共同募金、羽  
生市社会福祉協議会、ケンゾー、松本牛乳、NPO キ  
ャロット、森澤治枝、平良京子、田中峰雄、斎藤悦  
也、イハヒトミ、西村博之、春山教子(敬称略・順不  
同)



### 《編集後記》

秋も深まってきました。ここ数年は気候変動で春・秋がほとん  
どなく、夏と冬だけの季節になってしまった印象で、日本の美し  
い四季に戻ってきて欲しいと切に思います。

猛暑の中、東京オリンピック・パラリンピックも無事に終わり、  
たくさんの感動のストーリーに個人的には涙したのですが、思  
ったより、ふれんどの子どもたちは興味を示さず観戦していな  
かったようで、とても残念に思っています。自国開催でもコロナ  
禍で自粛ムードの中、TVでも学校でも生活の中でも話題にな  
ることが少なかったためと想像します。現在学校行事も少しず  
つ正常に戻っています。当たり前の日常に日々感謝です。

担当 矢板・島原